

# 大坂町奉行所の刑事判例(二)

——大坂城代土屋氏御用留による——

藤原和

三 嘉永五年正月より閏二月に至る 大坂城代土屋氏

御用留

儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、沓通

但、町奉行共差出候書付式通、例書沓通、帳面六

(表紙)

「嘉永五壬子年

御用留

冊

一吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、沓通

「從正月至閏二月」

但、町奉行共差出候帳面沓冊

一此表北久太郎町々出火之儀ニ付、申上候書付、沓通

(前略)

覚

但、町奉行共差出候書付沓通、絵図沓枚

一米価高直ニ付施行銭差出、又者無宿非人等御救筋御

右之通、書付都合六通、例書沓通、帳面七冊、絵図沓枚進達之仕候、以上

入用江差加金品差出候者并取扱候者其外御褒称之

二月六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行

申上候書付

土屋采女正

吟味六ヶ月以上未済書付壹冊、本多加賀守・川路左衛

門尉差出候付、入御披見候、以上

二月六日

(内表紙)

吟味六ヶ月以上未済書付

御扣(朱書)

本多加賀守

川路左衛門尉

加賀守掛

道修町三丁目

嘉永四亥年七月二日夕吟味

六兵衛借家

一不正唐物取扱候由相聞候一件

治兵衛

右三引合候者共

右一件及吟味候処、遠国引合有之、吟味延引仕候、

右者六ヶ月以上吟味相済不申候付申上候、以上

子  
正月

本多加賀守

川路左衛門尉

(中略)

覚

一此地御城外玉造御藏・曲輪両御門、同統瓦御堀并柵

共御修復之儀二付、被仰下承知仕候儀、申上候書付、

壹通

(中略)

一此表御目付江差出候春訴状差上候儀、申上候書付、

壹通

但、訴状壹通

一於此地、去亥年死罪之者并牢舎之者之儀、町奉行申

聞候趣、申上候書付、壹通

但、町奉行共差出候帳面壹冊、書付壹通

一 於堺、去亥年死罪之者并牢舎之者之儀、堺奉行申聞候趣、申上候書付、忝通

但、堺奉行差出候帳面忝冊、書付忝通

一 六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置候処、落着仕候儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候帳面忝冊

一 吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候帳面忝冊

一 吟味十ヶ月以上未済儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候帳面忝冊

一 六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置候処、病死仕候儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付、忝通

但、町奉行共差出候帳面忝冊

(中略)

右之通、書付都合拾八通・訴状忝通・帳面七冊進達之

仕候、以上

閏二月六日  
御老中五人様

土屋采女正

(中略)

於此地、去亥年死罪之者并牢舎之者之儀、町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

於此地、去亥年死罪之者科書忝冊、牢舎之者人数書付忝通、本多加賀守・川路左衛門尉差出候間、入御披見候、以上

閏二月六日

(内表紙)  
「嘉永四亥年大坂三而死罪之者科書

本多加賀守

川路左衛門尉」

(五一〇一)

元柴田日向守掛

無宿

嘉永三戌年十月七日入牢

江戸の

一死罪

熊藏  
亥廿貳歲

此者儀、行衛不知無宿藤吉・同異名吉申合、人家表之戸丸瓦ニ炭火を入、吹付焼切候節、家内之者起合候付、不得物取、逃去、西高津町尔而茂同様焼切這入候節、家内之者起合候迎、藤吉頭取、脇差拔持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、致盜候段、強盜之仕方、不届至極之科、翌亥年正月廿一日行之

(五一〇二)

無宿

嘉永三戌年十月十三日入牢

巳之助事

一死罪

新藏  
亥五拾四歲

此者儀、久離之身分ニ而從弟安堂寺町四丁目安兵衛方江合力頼ニ罷越、渡世之妨等いたし、致押乞候依

科、先達而棋河両国弘申付候上者相慎可申処、身分不詰ニ候迎、御構場江立入、右安兵衛方江罷越、同人留守中家内之者江衣類貸呉候様申聞及断候を不聞入、此者着用之木綿単物を脱捨置、木綿綿入老致押借着用之上立出、追而売払代錢遺捨候始末、不届之科、翌亥年正月廿一日行之

(五一〇三)

嘉永三戌年八月十九日入牢

無宿

大坂三郷町中引廻之上

木屋の

一死罪

與兵衛  
亥四拾六歲

此者儀、盜又者不届有之、敲入墨、重敲之上大坂三郷弘、拱河両国弘、入墨入直、輕中重追放等申付候身分不慎、御構場江立入、老人立又者行衛不知無宿異名いせ亀申合、浜納屋軒下ニ積有之杉板并浜先江致水揚有之炭等盜取、猶又所々浜土藏納屋等之戸錠前合鍵を以明、数度忍入或明掛有之内江入致盜候段、別而不届之科、翌亥年三月廿一日行之

(五一一〇四)

嘉永三戌年十月八日入牢

一獄門

無宿

播州の

富蔵

亥拾八歳

此者儀、死亡無宿利助事弥太郎申合、撰州天王寺村之内字清水坂ニおゐて往来人前後を挟、着用之衣類剝取候段、不届至極之科、亥年三月廿一日行之

(五一一〇五)

嘉永三戌年九月十八日入牢

一獄門

無宿

伊丹の

虎吉

亥廿二歳

(五一一〇六)

同日入牢

一死罪

同

池田の

市蔵

亥廿七歳

此者共儀、盗いたし、虎吉者入墨之上重敲、市蔵者

敲申付候身分不慎、市蔵者人立、人家裏口之戸明掛

り有之内江入致盗、其後被捕候節々外悪事而已及白

状、右盗口者不申立、入墨重敲等夫々御仕置申付候

身分ニ而盗心不相止、此もの共并死亡無宿越水の岩

吉・行衛不知無宿竹蔵・同寅吉・同異名研屋・同く

れない奴等追々手合を替申合、又者市蔵者人立、

所々人家裏口之戸納屋之戸等明掛り有之内江入致

盗、或軒先々掛有之銅口盗取候而已ならず此者共并

右寅吉申合、池田村人家ニ而者最前盗取候唐鍬鎌等

を持、裏之戸打破遁入候処、家内之もの起合、出火

之由声立候付、虎吉頭取、鎌を振上、金銀可差出、

声立立騒候ハ、可殺旨申威、(朱世一銀)金銀錢札品盗取候段、

強盗之至、不届至極之科、翌亥年三月廿五日行之

(五一一〇七)

嘉永三戌年九月廿三日入牢

一死罪

無宿

中嶋の

衆吉

亥拾八歳

(五一〇八)

同日入牢

同

狼の

一死罪

亀 吉

亥拾七歳

此者共儀、盜又者不屈有之、衆吉者敲可申付処、盗いたし候節者無宿幼年之儀ニ付、非人手下、其後入墨敲之上輕追放、中追放等可申付処、非人手下之儀

ニ付、入墨之上当表四ヶ所長吏共江引渡、右相当之仕置請候身分不慎、御構場江立入、所々ニ而往來人懷中之羽織珠數腰提之田葉粉入等度々盜取、其後被捕候節、右盜口押包外不屈而已及白狀、敲之上重追放仕置請、被追払候場所直ニ御構場江立入、亀吉も前同様非人手下入墨可申付処、幼年敲、其後入墨且死罪可申付処、惡事いたし候節者幼年ニ付、重敲、猶重敲、重敲之上重追放等可申付処、非人手下之儀ニ付、入墨之外者同様長吏共江引渡、夫々相当之仕置請候身分不慎、被追払候場所是又直ニ御構場江立入、此者共申合、又者衆吉壹人立、所々ニ而往來

人女番ニ差居簪盜取候内、盜賊之由声立候邊、兩人共所持之懷劍振廻相威、衆吉者壹人立候而も同様之及所業候上、壹ヶ度者往來人懷中江手を入候節、同道之者差押声立、外往來人寄集候邊可遁ため与者申懷中之剃刀を以、右差押候もの江乍聊疵為負候始末、重々不屈之科、翌亥年五月十九日行之

(五一〇九)

嘉永三戌年十月三日入牢

當時無宿

一死罪

徳次郎

亥式拾式歳

此者儀、南久宝寺町三丁目清兵衛方三元奉公いたし、暇請候後も折々立入、同人方困窮ニ而渡世出来兼、難波相暮候を氣之毒ニ存、何卒如以前再興いたし度候得共、自分一己之銀線難出来少々痛罷在候折柄、於途中當時無宿惣助・同松次郎出會、互ニ不詰之次第咄合候上、清兵衛方ニ一宿相頼、二階ニ而打臥候節、徳次郎儀同所窓隣家嘉平次方土蔵を見請、右

方者商手広ニいたし富家之由申聞候、惣助儀右土蔵屋根切破致盗品売払遣用ニ可致旨、同人發意ニ同意いたし、此者儀脇差を帶、一同窓合伝ひ行、土蔵屋根瓦捲取、裏板脇差を抜切破、此もの并惣助忍入、松次郎□辺ニ往來人を心付、盜いたし、右品之内此もの、西高津町熊次郎置主ニ相頼、清兵衛江証人之判組同様相頼候節、同人儀見覚有之品之由心付尋請候を、出所儲成品之由申成、質入いたし代金分取、残之品清兵衛留守中居宅床下ニ隱置、嘉平次方紛失物之風聞高相成、心中不易、銘々立退身隱いたし候段、此もの者假令元主家難洪救度与之申口共難取用、不届之科、翌亥年五月十九日行之

(五一二一〇)

嘉永三戌年五月十九日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

黒の

豊 吉

亥廿七歳

(五一二一一)

同日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

同

小岩事

岩 吉

亥廿三歳

(五一二一二)

同年九月朔日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

上町の

春 吉

亥三拾歳

(五一二一三)

同年八月廿六日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

上町の

勝次郎

亥三拾六歳

(五一二一四)

同日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

同

郡山の

鶴 吉

亥廿三歳

(五一二一五)

同年五月十二日入牢  
大坂三郷町中引廻之上

同

加賀の

一獄門

音 吉  
亥廿五歳

此者共儀、豊吉者致盜、敲申付候身分不慎、岩吉諸共致盜、兩人知ル人無宿庄吉儀悪党共之内ニ而も別而氣質不宜候故、不交様心掛候処、庄吉被捕候ハ、同類ニ可申立与差合候趣、風聞承り心憎存、撰州大和川堤江誘引出、兩人申合突殺、鶴吉手合等ニ而所々人家表裏之戸固辞明這入致盜、豊吉・岩吉申合、北久太郎町四丁目・安土町老丁目・北革屋町・道空町・御堂前町江押入候砌、人家之者手差不致様為怖、又者逃去候跡ニ而致盜、南鍋屋町・備後町式丁目ニ而者代ル々頭取、脇差を抜、金銀可差出旨言葉を掛、可切殺杯申威、乍致盜、其後被捕、吟味之節右次第押包、外盜之筋申立、豊吉・岩吉者入墨之上重敲、春吉・勝次郎も先達而致盜、同様申付候身分ニ而、此もの共并死亡無宿丑松・行衛不知同平吉・同藤吉・同亀吉・同平吉・同末吉・同異名聲市等追々手合を替申合、所々人家壁切破、表格子を外シ二階窓を這

入、數ケ度之致盜、或者音吉老人立、橋々ニ打付有之銅物盜取、高麗橋式丁目・南久太郎町三丁目・天満棕橋町・同所樋之上町・南本町五丁目ニ而者勝次郎・春吉・鶴吉互ニ頭取、前同様申威、又者人家之もの逃候跡ニ而致盜候段々之始末、別而不届至極之科、翌亥年五月廿七日行之

(五一一一六)

無宿

嘉永三戌年八月廿六日入牢

高の

一獄門

長 吉  
亥廿九歳

(五一一一七)

同

同日入牢

堀江の

一死罪

安 藏  
亥三拾三歳

此者共儀、先達而盜いたし、兩人共入墨之上重敲、安藏者猶不屈有之、重敲之上重追放申付候身分不慎、長吉儀行衛不知無宿異名奈良・同岡・同江戸・同力



松等追々手合を替申合、所々人家土蔵之戸切破、裏口之戸固辞明這入、又者同様明掛有之内江入、夫々盗いたし、其上安藏者御構場江立入、此もの共并死亡無宿岩吉申合、北堀江四丁目人家江も同様這入候折柄、家内之もの起合相答候迎、銘々鑿割木庖丁等取持、長吉頭取、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨、家内之ものを申威、盗いたし候段、強盜之仕方不届至極之科、翌亥年五月廿七日行之

(五一二一八)

嘉永三戌年十一月廿四日入牢

無宿

大坂三郷町中引廻之上

安太郎事

一獄門

徳松  
亥廿七歳

(五一二一九)

同日入牢

同

大坂三郷町中引廻之上

大坂の

一死罪

梅吉  
亥廿七歳

此もの共儀、徳松者死亡無宿弥三郎申合、立替頭取、

阿波町・山本町・高麗橋式丁目人家表之戸固辞明押入、出刃庖丁を振上、金銀可差出、声立候ハ、可突殺旨、家内之ものを申威、度毎乍致盜、其後被捕候節、右盜口者押包、外悪事而已及白状、敲相成候身分不愼、此もの共申合、又者徳松者人立、所々ニ而往来人帯居候脇差、懷中之錢等奪取、徳松者錢を肩ニ掛居候候下人躰之ものニ付添、人家江這入、脇差抜放、為驚候而、右錢奪取、猶死亡無宿弥助兩人共、人家表之戸明掛り有之内江入候而も盗いたし候、其上此もの共并徳松・弥助手合ニ而、京町堀四丁目・山田町・升屋町・北濱式丁目・北久宝寺三丁目・南本町四丁目人家江も押入候節、恚ケ所者弥助頭取、其余者徳松頭取、銘々脇差を抜持、前同様家内之ものを申威、夫々盗いたし候段、強盜之至、殊ニ数度之儀、別而不届至極之科、翌亥年五月廿七日行之

(五一二二〇)

南久太郎町恚丁目

嘉永四亥年正月廿七日入牢

藤兵衛支配借家

大坂三郷町中引廻之上

六歳下人

一死罪

太助  
亥廿三歳

此もの儀、飛脚渡世右六歳方ニ奉公中、届物取扱候

身分ニ而、同人申付、外町人共々差越候金子入書状

式通、和州表江持越候於途中、右式通書状封印切解、

都合金七拾両盗取、右之内遺捨殘金所持罷在候段、

別而不届之科、同年五月廿七日行之

(五一二二二)

嘉永四亥年十二月廿二日入牢

無宿

一死罪

大坂の

一死罪

虎吉  
亥三拾四歳

(五一二二三)

同日入牢

同

一死罪

大坂の

一死罪

定吉  
亥廿三歳

此もの共儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候

身分不慎、此もの共并死亡無宿喜助申合、小濱町人

家横手壁打毀這入候折柄、家内之もの起合相各候

迎、金銀可差出旨、銘々詞突ニ申聞、盗いたし候段、

不届之科、同年六月十八日行之

(五一二二三)

嘉永四亥年四月九日入牢

無宿

一獄門

伏見の  
元吉  
亥拾九歳

此もの儀、先達而盗又者不届有之、入墨之上重敲、

猶重敲重追放等申付候身分不慎、被追払候場所直

御構場江立入、往来人手ニ提居候脇差奪取、又者無

宿丑松ニ出会候節、同類ニ加り候様相勧、及断を不

聞入、不承知ニ候ハ、致方可有之旨、剛勢を震申聞、

同類ニ引連、往来人を為致見張、谷町式丁目人家上

ヶ店を固辞明這入候処、家内之もの起合候付、辺ニ

有之棒を振上、逃出候跡ニ而致盜、伏見両替町ニ而

も丑松を前同様往来人を為致見張、右人家裏口之戸

固辞明這入候処、家内之もの起合候連、帶居候脇差  
扶持、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、盗いた  
し、然而已ならず人家土蔵戸前焼切這入、盗いたし  
候段、不届至極之科、同年七月六日行之

(五二二二四)

嘉永四亥年二月廿九日入牢

一死罪

無宿

坂町の

馬之助

亥拾八歳

此もの儀、先達而盜街事等いたし、入墨敲可申付処、  
幼年之儀ニ付重敲、猶又盗いたし、入墨敲申付候身  
分不慎、所々ニ而遊居候幼年もの江馴々敷言葉を掛、  
此もの着用之衣類を穢候間、貸呉候様申聞、又者幼  
年之者衣類汗付見苦敷可洗遣、或川遊其外戲事ニ事  
寄品々申欺、幼年之者着用之衣類為脱捨度々致盗、  
其上道連ニ相成候旅人之もの肩ニ掛居候品奪取候  
段、不届之科、同年八月廿一日行之

(五二二二五)

嘉永四亥年二月八日入牢

一死罪

無宿

木周の

佐助

亥三拾歳

此もの儀、死亡無宿裸の源次郎・同京の喜三郎申合、  
可致盗与駿河町通掛り候節、夜番人見咎立向候を心  
憎存、源次郎・喜三郎帶居候脇差を抜、源次郎重立  
疵為負逃去、猶同様申合、内久宝寺町人家表之戸石  
を以打破這入、乍致盗源次郎儀辺ニ臥居候男を引起、  
猶金銀可差出旨申聞致打擲、彼是申威候折柄、幼女  
走り出、右男を構ひ氣健之振舞いたし候ニ感、其儘  
逃去、其後被捕候節、外盜筋而已及白状、入墨之上  
重敲申付候後も盜不相止、死亡無宿京の安吉・同大  
坂の亀吉申合、同人重立、住吉屋町人家表之戸石を  
以打破り押入、家内之もの逃出候跡ニ而致盗、猶死  
亡無宿梅吉・行衛不知同岩吉・同異名若等手合を替  
申合、人家表之戸固辞明、又者同戸明掛り有之内江  
入、盗いたし候始末、不届之科、同年十月九日行之

(五一二二六)

加賀守掛

嘉永四亥年正月廿日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

安太郎事

重 助  
亥廿六歳

此もの儀、所々人家表口横手之壁・雪隠之壁等切破、又者軒下ニ積有之真木の屋根江伝ひ上り、右屋根切破り、或竹真木等取集、繩を以梯子ニ取補理、人家軒先江掛ケ屋根江上り、右屋根を伝ひ行、二階之壁切破這入、家内之もの起合候節々、脇差拔持、声立候者可切殺旨申威、盗いたし候内、天満菅原町外老ケ所ニ而者家内之者立向ひ候儀を心憎存候迎、右抜刃を以疵付、剩天満拾一丁目外老ケ所ニ而者家内之ものを捕、土蔵又者穴蔵等江案内為致、多分之金高盜取候段、強盜之至、殊ニ数度之儀、別而不届至極之科、同年二月十三日行之

(五一二二七)

一一

嘉永貳四年十月十一日入牢

一死罪

無宿

京の

徳 松  
亥廿貳歳

(五一二二八)

同年十一月十八日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

同

近江屋

福 松  
亥廿三歳

此もの共儀、徳松者先達而盜又者不届有之、敲可申付処、拾四歳与申立、無宿幼年之儀ニ付、非人手下敲可申付処、非人手下之儀ニ付、当表四ヶ所長吏共江引渡、敲相当之仕置可申付旨申渡候身分不愼、死亡無宿黒須の清吉・からつほの平吉申合、往来医師躰之者帯居候脇差可奪取与手を掛候節、打掛り候者江徳松・清吉致所持候懐剣を抜、振廻シ、右之もの江聊疵付、不得物取逃去、又者徳松・清吉申合、往来人肩ニ掛ケ居候袋を切抜、金銀銭品盜取、或徳松老入立、往来人帯居候脇差奪取、其後被捕候得共、右盜口悪事之次第者押包、外盜口悪事而已及白状、

入墨猶又重敲可申付処、非人手下之儀ニ付、当表四ヶ所長吏共江引渡、重敲相当之仕置可申付旨申渡候後も、悪事不相止、行衛不知無宿虎吉申合、大道ニ而往來人肩ニ掛ヶ居候袋を切拔、金銀盜取候而已ならず、徳松彦人立、所々辻合、又者人立群集之場所ニ而往來人懷中或腰に提ヶ居候品をも盜取、福松者布袋町治兵衛悴死亡吉太郎・無宿大和町の弥三郎并行衛不知難波新地壱丁目熊右衛門同居菊松申合、所々ニ而往來人を取巻、手ニ提又者肩ニ掛ヶ居候錢品奪取候上、福松儀吉太郎・弥三郎・菊松等追々手合を替申合、銘々出刃庖丁脇差等拔持、福松頭取、京町堀壱丁目外拾ヶ所ニ而著人家江押入、金銀可差出、声立候ハ、可突殺旨、家内之ものを申威、殊北堀江壱丁目ニ而著盜賊之由声立、追々近辺之もの共出合、樺木切杯を携、立向ひ候を福松儀、心憎存候逆、右出合候もの江疵為負、剩同人儀吉太郎・弥三郎申合、往來之ものを捕着用之衣類無鉢ニ剣取、猶懷中之錢をも奪取候始末、福松者強盜之至、殊ニ数度之儀、

剩一同吟味中入牢申付置候内、右悪事之次第ニ而者、迎茂助命難相成、一同被処嚴科ニ候儀与存量候逆、牢内江火を掛ヶ、其騒ニ逃去可致助命与合牢無宿京の菊松出牢いたし候儀を幸ひニ同人相頼、徳松所持之衣類相渡、右品之内売払代錢を以、火打道具并食物買調、右火打道具者衣類之内江竊入置、福松伯父前書治兵衛江相渡候上、同人今福松江右品為差入、牢拔可致旨申合候始末、不恐公儀大胆之至、別而不届至極之科、去亥年三月廿一日行之

(五一二二九)

嘉永三戌年三月十二日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

無宿  
鍛冶屋の  
龜 吉  
亥三拾壹歳

(五一二三〇)

同年四月十八日入牢

同穢多

まいの

一死罪

巳之助  
亥三拾一歳

(五一三二)

同

同日入牢

一死罪

加賀の  
弥兵衛  
亥廿七歳

此者共儀、巳之助・弥兵衛者先達而盜又者不屈有之、  
巳之助者敲、入墨重敲等可申付処、穢多之儀ニ付、

入墨之上度每当表穢多村年寄江引渡、右夫々相当之  
仕置可申付旨申渡、弥兵衛者入墨之上重敲等申付候  
身分、兩人共不慎、此もの共并行衛不知無宿梅吉・  
同吉兵衛・同兼吉等追々手合を替申合、又者老人立、  
所々人家表口錠前捻切、或錠前之肘鉄を抜、又ハ表  
之戸固辞外シ、或表之戸建寄有之を明遁入、又者表  
之戸明掛り有之内江入、致盜候而已ならず、店先江  
差置有之品をも盜取、剩亀吉者死亡無宿弥三郎并行  
衛不知無宿異名化の岩申合、白髮町人家尔而表之戸

石を以打割押入候折柄、家内之もの起合相答候迎、  
右弥三郎頭取、銘々帯居候脇差拔持、声立候者可殺  
旨申威、盗いたし候段、強盜之至、不屈至極之科、  
翌亥年三月廿一日行之

(五一三三)

嘉永三戊年四月廿七日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

無宿  
あわの  
卯之助  
亥三拾貳歳

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲可申付処、素  
性穢多之趣申偽候付、入墨之上当表穢多村年寄江引  
渡、重敲相当之仕置請候後、於阿州も盗いたし、同  
国役場ニ而右内股江焼印之上、右領内五郡并淡州須  
本追放相成候身分不慎、河岸端ニ差置有之品盜取、  
剩所々人家裏口之戸明掛り有之内江入、或建寄有之  
戸障子を明遁入、致盜候而已ならず、此もの老人立、  
又者行衛不知無宿伊与の弥三郎申合、所々人家表裏  
口之戸并納屋土藏之戸錠おろし有之候を、針銅竹切

等を以右錠を明ヶ追入候而も、致盜候段、殊ニ数度之儀、別而不届之科、翌亥年三月廿一日行之

(五一二三三)

南本町三丁目

藤兵衛借家

佐助事

嘉永三戌年五月二日入牢  
一死罪

由兵衛

亥三拾五歳

此もの儀、無宿讚州の金藏并行衛不知無宿浅吉申合、又者忝人立、所々人家土蔵并裏口之戸明掛り有之内江入致盜、或右金藏・行衛不知無宿伊予の善吉等之質入之儀相頼候品者盜もの等乍心付聞請、此もの盜取候品与忝束ニいたし、致質入遣候付、先達而召捕吟味中入牢之上重病ニ付、下宿所預申付置候身分不愼、番人共油断之透を考逃去、猶又無宿彦七・死亡無宿善助等ニ為致手引、所々人家裏口之戸明掛り有之内江入、又者行衛不知無宿異名河原池之又申合、人家裏口之壁切破り手を入、メ之掛鉄を明這入、都

合金高之品盜取、剩行衛不知上難波町新助并順慶町四丁目治兵衛・南久太郎町式丁目庄七を申透、右躰惡事いたし候身分を押包、書面藤兵衛借家借請致住居候始末、別而不届之科、翌亥年三月廿一日行之

(五一三三四)

無宿

嘉永四亥年正月廿五日入牢

兵庫の

一死罪

巳之助

亥拾七歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、敲可申付処、無宿幼年之儀ニ付非人手下、右前科押包敲可申付処、無宿幼年之儀ニ付非人手下、入墨之上重敲可申付処、幼年之儀ニ付入墨重敲可申付処、幼年其上非人手下之儀ニ付五十日手鎖重敲、猶又重敲之上重追放可申付処、非人手下之儀ニ付度每当表四ヶ所長吏共江引渡、夫々相当之仕置、又者咎等可申付旨申渡候身分不愼、構場所江立入、然而已ならず往来人脊負居候品盜取掛候儀を同人心付、捕押ニ掛候連、其場を為

可遁与者乍申、剃刀を以右之もの江疵付候段、仮令不得物取候共、不届至極之科、同年五月九日行之

(五一—一三五)

嘉永四亥年二月六日入牢

無宿

大坂三郷町中引廻之上

三田の

一死罪

與三吉

亥四拾壹歳

(五一—一三六)

同日入牢

同

大坂三郷町中引廻之上

播州の

一死罪

由松

亥廿五歳

此もの共儀、与三吉者先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、入墨入直大坂三郷弘、重敲之上重追放、最前之入墨之際江猶又入墨之上重追放申付候身分不愼、御構場江立入、此もの共追々手合を替申合、又者銘々老人立、所々人家表之戸固辞明、或裏手壁切破り同所壁を壊、其所合手を入、メリの掛ケ鉄を外

し、又者土蔵之腰板壁等切破、内三張有之板或土蔵之戸前を焼切這入候而已ならず、表之戸明掛有之内江入候而も致盜候段、老ケ度者不得物取候共、数度之儀、別而不届之科、同年五月十九日行之

(五一—一三七)

嘉永四亥年五月十九日入牢

無宿

大坂三郷町中引廻之上

さぬきの

一獄門

伊三郎

亥廿九歳

(五一—一三八)

同日入牢

同

大坂三郷町中引廻之上

山戸の

一死罪

駒吉

亥廿七歳

(五一—一三九)

同日入牢

同

大坂三郷町中引廻之上

江州の



一 死罪

佐 助  
亥廿五歳

亥三拾壹歳

此もの共儀、伊三郎・駒吉者先達而盜又者不屈有之、伊三郎者京都・堺等おゐて入墨之上重敲、猶重敲洛中洛外私相成、其後当表おゐても不屈有之、中追放申付、駒吉者奈良おゐて敲相成候身分、兩人共不憤、伊三郎御構場江立入候而已ならず、此もの共申合、所々人家表之戸打割、押入候ニ家内之もの致恐怖、奥之間江逃入候跡ニ而金錢品盜取、剩駿河町外八ヶ所ニ而八家内之もの起合候逆、伊三郎頭取、銘々持居候脇差又者真木或辺リニ有之棒を振上ヶ、声立候者可殺旨申威、致盗内三ヶ度者駒吉儀表口ニ往来人之心付罷在候段、強盜之至、殊数度之儀、別而不屈至極之科、同月廿七日行之

(五一四〇)

嘉永三戌年十二月十日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

無宿

大坂の  
鉄次郎

此もの儀、行衛不知無宿辰之助・同異名はまだ定・同衆吉・同備善の松藏等追々手合を替申合、所々人家表之戸固辞明遁入、又者抜刃を持、表之戸明掛有之内江押入候節々、家内之もの起合立騒候逆、此もの并辰之助等立代り頭取、抜刃を持、声立候者可殺旨申威致盜、其後京都又者当表おゐて被捕候度毎、右所業押包外盜口及白状、敲之上洛中私入墨等申付候身分不憤、行衛不知無宿備善の松藏・同千吉等手合を替申合、人立群集ニ紛れ、往来人懐中之金子并銀札紙入等盜取、又者奪取候節ニ至、右往来人共心付或声立、此ものを引留、往来人共も右次第を聞付寄集候鉢ニ付、身分怖敷相成候逆、取得候金品之内差戻、又者投返し、右往来人之氣先を為弛、致猶予候透を考逃去、然而已ならず行衛不知無宿栄次郎申合、橋通式丁目人家表之戸焼切、右焼切候穴を手掛リニいたし、右戸之板引放候得者横棧有之、自由ニ難押込、残念ニ存候折柄、家内之もの起合相替候逆、金

子差出候ハ、立掃可遣、無左候者居宅を可焼払旨、

戸外声高ニ申威ニ致恐怖、既右家内之もの相恐、

引放候戸之透分投出候錢持退候段々之始末、強盜之

至、殊ニ数度之儀、別而不届至極之科、翌亥年六月

十八日行之

一死罪

新兵衛

亥四拾八歳

(五一二四二)

嘉永三戌年十二月十九日入牢

無宿

はなこ屋の

一死罪

富吉

亥廿七歳

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不  
慎、行衛不知無宿異名勝・同安等申合、所々人家表

裏口之戸明掛有之内江入致盜候段、不届之科、翌亥

年七月十八日行之

此もの儀、先達而於江戸盜又者不届有之、入墨之上  
重敲、如元入墨之上江戸払相成候身分不慎、所々人  
家表之戸建寄有之を明、又者明掛り有之内江入、或  
板塀を乗越、裏口江下り、メ寄り有之入口之戸を明  
這入、致盜候而已ならず、知ル人曾根崎新地壱丁目  
定吉方江罷越候節、辺ニ人不居合候逆、手元之品盜  
取、其後相頭右品之内差戻、其余壳払遣捨候代金者  
跡分相償候約諾いたし、内証尔而穩便ニ為濟貫候儀  
ニ候共、右始末不届之科、同年七月廿一日行之

(五一二四三)

嘉永四亥年二月十九日入牢

無宿

播州の

一獄門

繁蔵

亥廿七歳

(五一二四二)

嘉永四亥年正月廿九日入牢

無宿

政五郎事

(五一二四四)

同日入牢

同

堀江の

一死罪

定 吉

亥拾九歳

申付候身分不慎、行衛不知無宿由松申合、人家土蔵窓之格子を打外シ這入、盗いたし候段、不届之科、同年七月廿一日行之

此もの共儀、先達而盗又者不届有之、繁蔵者敲之上

輕追放、定吉者敲入墨之上重敲申付候身分不慎、死

亡無宿中村の房吉并行衛不知無宿虎吉等追々手合を

替申合、所々人家表之戸固辞明、又者表之戸建寄有

之を明這入、盗いたし候而已ならず、淡路町壱丁目

外一ヶ所ニ而ハ繁蔵頭取、出刃庖丁振上ヶ、金銀可

差出、声立候者可殺旨、家内之ものを申威、金錢品

盜取候段、繁蔵者強盜之至、別而不届至極之科、同

年七月廿一日行之

(五一一四六)

無宿

新地の

嘉永四亥年五月朔日入牢

一獄門

虎 吉

亥廿一歳

此もの儀、行衛不知無宿龜吉・同異名并与申合、所々ニ而往来人を引留、龜吉者出刃庖丁を持、着用之品可相渡、無左候者可突殺旨申威、右之もの共着用又者所持之錢衣類品等剝取候段、不届之科、同年七月廿一日行之

(五一一四五)

無宿

伊丹の

嘉永四亥年三月十一日入牢

一死罪

藤 吉

亥廿貳歳

(五一一四七)

無宿

播州の

嘉永四亥年正月十四日入牢

一死罪

久 吉

亥貳拾歳

此もの儀、先達而盗いたし敲、猶又入墨之上重敲等

(五一二四九)

嘉永四亥年四月五日入牢

無宿

鼠の

一死罪

佐兵衛

亥廿九歳

此もの儀、先達而盗いたし、於堺入墨之上重敲相成、其後当表おゐても不届有之、重敲申付候身分不届、行衛不知無宿熊吉・同江戸の万吉・同黒嶽の藤吉・同ざん切の増藏等追々手合を替申合、所々人家表之戸固辞明這入、盗いたし候而已ならず、忝人立候而も人家軒下出し店ニ差置有之品をも盗取候段、不届之科、同年七月廿九日行之

(五一二四八)

嘉永四亥年四月二日入牢

無宿

伏見の

一獄門

松之助

亥廿三歳

此もの儀、行衛不知無宿異名源江戸申合、人家表格子を固辞明外し這入候折柄、家内之者起合候迎、此もの頭取、帯居候脇差拔持、声立候者可切殺旨申威、致盗候段、強盗之至、不届至極之科、同年七月廿九日行之

(五一二五〇)

嘉永四亥年四月十三日入牢

無宿

伊丹の

一死罪

音吉

亥廿九歳

此もの儀、先達而致盗、於堺入墨之上重敲相成候身分不届、無宿玉造の万吉・大坂の万次郎・同死亡山崎の馬之助等追々手合を替申合、所々人家表之戸固辞明這入、剩南久太郎町四丁目人家ニ而ハ家内之もの起合候迎、死亡馬之助頭取、声立候ハ、可メ殺旨申威、盗いたし候段、不届之科、同年七月廿九日行之

嘉永四亥年四月十三日入牢

無宿

伊丹の

一死罪

音吉

亥廿九歳

此もの儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲、其後不届有之、重敲等申付候身分不届、所々人家表之戸明

掛り有之内江入、盗いたし候而已ならず、人家土蔵  
之戸建寄有之を明這入候而も致盜候段、不届之科、  
同年八月十一日行之

(五一二五二)

無宿

京の

嘉永四亥年五月朔日入牢  
一死罪

龜 吉  
亥廿六歲

此もの儀、先達而盗いたし、於京都入墨之上重敲、  
洛中洛外私相成候後、当表ニ而も不届有之、重敲申  
付候身分不届、所々人家裏口之戸明掛り有之内江入、  
盗いたし候段、不届之科、同年八月十一日行之

(五一二五三)

無宿

玉吉事

嘉永四亥年三月九日入牢  
一死罪

宇之助 吉  
亥廿七歲

此もの儀、死亡無宿弥太郎事福松申合、雑候場町人

大坂町奉行所の刑事判例(二)

家江罷越、此もの者表口ニ罷在、福松儀右人家屋根  
江上り、裏手江下り、入戸之切戸を明ケ這入候折柄、  
家内之もの起合候逆、声立候者可メ殺旨申威シ、右  
家内之ものを店之間江追込置、表口メリ之貫メを内  
へ外し、入口を明、此ものを引入致盜候段、強盜之  
至、不届至極之科、同年八月十九日行之

(五一二五四)

無宿

雲助の

嘉永四亥年五月十二日入牢  
一獄門

音 吉  
亥廿五歲

(五一二五五)

同

ゑどの

同日入牢  
一死罪

常 吉  
亥廿三歲

此もの共儀、音吉者先達而致盜、入墨之上重敲申付  
候身分不届、此もの共并行衛不知無宿異名小江戸・

二一

同若等追々手合を替申合、所々人家裏口之戸固辞明  
這入、剩宗右衛門町ニ而八家内之もの起合候迎、音  
吉頭取、銘々持居候出刃庖丁振上ヶ、声立候者可殺  
旨申威、盗いたし候段、強盜之至、不届至極之科、  
同年八月十九日行之

(五一二五五)

嘉永四亥年五月十四日入牢  
一死罪

無宿  
始屋の  
勝 蔵  
亥拾八歳

此もの儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候身  
分不愼、無宿湊町の仙太郎申合、又者此もの忝人立、  
所々人家店先又者軒下、或納屋入口ニ差置有之候品、  
盗取候而已ならず、人家表口之障子建寄有之を明這  
入候而も、盗いたし候段、不届之科、同年八月十九  
日行之

(五一二五六)

嘉永四亥年五月十七日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一獄門

(五一二五七)

同日入牢  
一死罪

無宿  
船橋の庄吉事  
かつさの  
勝 五郎  
亥廿七歳

(五一二五八)

同日入牢  
一獄門

同  
野畑の  
佐 兵衛  
亥三拾六歳  
西宮の  
市 蔵  
亥廿三歳

此もの共儀、佐兵衛者先達而致盜、入墨之上重敲申  
付候身分不愼、此もの共并死亡無宿本庄の留吉・行  
衛不知無宿勝蔵・同堀江の政吉・同万吉等追々手合  
を替申合、所々人家表裏之戸、又者寺院庫裏之戸・

観音堂入口之戸固辞明、家内或寺内之もの・堂番人等起合候度毎、勝五郎頭取、銘々持居候脇差・出刃庖丁杯振上、声立候者可切殺旨申威、市藏者老人立候而も、表之戸明掛有之内江入、盗いたし、剩勝五郎・市藏申合、天満北木幡町人家江再度這入候節ニ至、家内之もの捕押ニ掛り候儀を心憎存候迎、右刃物を以疵付候段、不得物取候共、強盗之仕方、殊ニ勝五郎者数度之儀、別而不届至極之科、同年八月廿二日行之

(五一二五九)

嘉永四亥年正月廿五日入牢  
一獄門

無宿

田川の

富 吉

亥廿三歳

(五一二六〇)

嘉永三戌年十二月晦日入牢

同

玉造の

一獄門

万 吉  
亥拾九歳

(五一二六一)

同日入牢

同

大坂の

一獄門

万次郎  
亥拾七歳

此もの共儀、先達而盗又者不届有之、富吉者敲入墨之上重敲、万吉者於江戸表入墨敲、於当表も重敲、万次郎者敲可申付処、無宿幼年之儀ニ付、非人手下入墨可申付処、幼年其上非人手下之儀ニ付、当表四ヶ所長吏共江引渡、敲相当之仕置請候上、入墨申付候後、入墨入直大坂三郷払、撰河両国払、軽追放可申付候処、非人手下之儀ニ付、入墨入直、度每前同様長吏共江引渡、夫々相当之仕置請候身分一回不慎、万次郎ハ構場江立入、此もの共并行衛不知無宿躰之者申合、寺院窓之障子明掛り有之所内江這入、万吉・万次郎・佐兵衛申合候而者人家表之戸固辞明這

(五一二六三)

嘉永四亥年二月十六日入牢

無宿

越前の

六 松

一死罪

亥廿三歳

入、夫々致盜又者富吉儀行衛不知無宿沙兵衛申合、  
寺院表入口ニ差置有之品をも盜取、或万次郎儀行衛  
不知無宿明石の卯之助申合、人群集ニ紛、往來人の  
袂錢盜取、然而已ならず、此もの共も申合、往來人  
を取巻、万吉儀帯居候脇差拔持、右之もの持居候提  
灯擲落シ、着用之品可相渡旨申罵、着用之衣類品剝  
取候後、右之もの捕押ニ掛候連、万吉儀右脇差を以  
疵為負候得共、終ニ被捕押、万次郎者被組付居候万  
吉を可引放与一旦取掛り候後、富吉一同逃去候始末、  
不届至極之科、去亥年九月二日行之

(五一二六二)

嘉永四亥年正月十四日入牢

無宿

品川の

栄 吉

一死罪

亥廿五歳

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不  
慎、所々寺院庫裏之戸明掛有之内江入、致盜候段、  
不届之科、同年九月二日行之

(五一二六四)

嘉永四亥年四月五日入牢

無宿

河内の

柵 蔵

一死罪

亥廿三歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲申  
付候後、最前盜取候品隠し置、被捕候節、其儀押包  
御仕置請、出牢之上、右品取出し所持罷在候付、猶  
又吟味之上、御咎之不及沙汰旨申渡候身分不慎、人  
家表格子之下壁切破り這入、盗いたし、其後被捕候  
得共、右盜口押包、外悪事而已及白状、重敲申付候  
身分不慎、所々人家裏口之戸固辭明這入、盗いたし  
候段、不届之科、同年九月二日行之

(五一二六四)

嘉永四亥年四月五日入牢

無宿

河内の

柵 蔵

一死罪

亥廿三歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、



猶又重敲等申付候身分不慎、死亡無宿石町の卯三郎  
申合、又者耆人立、所々人家表之戸固辞明、或表戸  
之板を引放し手を入、戸之メリ之栓を抜這入、致盜  
候段、不届之科、同年九月二日行之

亥三拾四歳

(五一二六五)

無宿

金毘羅事

非太刀の

嘉永四亥年四月十四日入牢  
一死罪

龜 吉  
亥廿九歳

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不  
慎、行衛不知無宿やまとの安吉・同大坂の千吉等申  
合、人家裏口之戸固辞明這入、致盜候段、不届之科、  
同年九月二日行之

(五一二六六)

無宿

坂出村の

嘉永四亥年七月三日入牢  
一獄門

丈 吉

此もの儀、人家裏口之戸建寄有之を明這入候折柄、  
家内之もの起合候逆、帯居候脇差拔持、金銀可差出、  
無左候者可切殺旨申威、致盜候而已ならず、人家天  
窓の細引繩を釣下ヶ伝ひ下り候節も、猶又家内之もの  
起合相咎候付、前同様可申威与帯居候脇差拔放候  
得共、右之もの不相恐、棒を以打掛候付、被捕押問  
敷与右拔刃を以、請留打合候付、右之もの氣先相弛  
候透を考逃去候段、不得物取候共、強盜之仕方、不  
届至極之科、同年九月廿六日行之

(五一二六七)

無宿

切られの

嘉永四亥年五月四日入牢  
一死罪

石 松  
亥三拾歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、  
猶又重敲等申付候身分不慎、無宿近江の亀次郎・同  
親父事初次郎并行衛不知無宿定吉・同仲藏等追々手

(合カ)  
替を替申合、此もの儀初次郎之肩ニ乗、同人を脊繼  
ニいたし、人家屋根江上り、メ寄有之二階之戸明ケ  
這入、又者表之戸明掛り有之内江入、盗いたし、或  
軒下ニ差置有之品をも盗取、然而已ならず、此もの

儀無宿吉兵衛分売捌之世話相頼候品者身分不相応ニ  
而怪敷乍心付、知人之儀断も難申存候逆、引請売捌  
遣候段、不届之科、同年九月廿九日行之

(五一二六八)

嘉永四亥年三月十六日入牢

一死罪

無宿

出嶋の

亀 吉

亥拾九歳

此もの儀、先達而致盗、於堺入墨之上重敲相成候後、  
於当表も盗相働候得共、其後被捕候節々、右盗口者  
押包、外悪事而已及白状、重敲猶又重敲等申付候身  
分不慎、行衛不知無宿徳松申合、又者此もの老人立、  
所々人家裏口之戸或揚ヶ店之板を固辞明外し這入、  
致盗候而已ならず前同様徳松申合、往来人を取巻、

着用之衣類可脱渡、不承知ニ候者可メ殺旨申威候ニ  
恐、右之もの逃去候跡ニ落置候品盗取候段、不届之  
科、同年十月廿一日行之

(五一二六九)

嘉永四亥年八月八日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

無宿

大坂の

豊 吉

亥廿三歳

(五一二七〇)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一獄門

同

淀の

卯之助

亥廿三歳

(五一二七一)

同日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

同

火鞆加の

武 助

亥廿三歳

(五一二七二)

同日入牢  
一死罪

同  
西濱の  
繁 藏  
亥廿歳

此もの共儀、豊吉者先達而盗いたし、入墨之上重敲可申付処、幼年之儀ニ付、入墨申付候身分不慎、此もの共并行衛不知無宿異名はつれ竹、同與兵衛等追々手合を替申合、所々人家江罷越、繁藏者辺ニ往來人或炭之番人等を心付、又者途中ニ待請罷在、豊吉・卯之助・武助儀者立代り、右繁藏其余之者之肩ニ乗、右之者を脊繼ニいたし、或丸木を持行、軒先江建掛ケ、右を足掛リニいたし、又者板塀を伝ひ屋根江上り、二階窓之透夕手を入、或二階之戸窓之子(格子)を外し、座敷之戸固辞明、又者壁切破這入、繁藏も内沓ケ度同様這入、或表之戸明掛有之内江入、家内之もの起合候節々、豊吉・卯之助立代り頭取、銘々持居候抜刃・真木等を振上ケ、又者家内之ものを木綿裂ニ而括置、声立候者可打殺旨申威致盗、内沓ケ

大坂町奉行所の刑事判例(二)

度者不得物取逃去、然而已ならず、阿波町ニ而者豊吉儀持居候抜刃を振廻し、捕押ニ掛り候家内之もの江疵付、不得物取一同逃去候共、強盜之至、殊豊吉・卯之助・武助者数度之儀、別而不届之科、同年十月廿一日行之

(五一二七三)

無宿  
堀の  
嘉永四亥年五月九日入牢  
一死罪  
芳 松  
亥廿歳

(五一二七四)

同日入牢  
一死罪  
同  
尼の  
音 吉  
亥三拾一歳

此もの共儀、音吉者先達而盗いたし、入墨之上重敲申付候身分不慎、此もの共并死亡無宿柏原の栄助・同上町の平吉・同天王寺の与吉等申合、人家表之戸

(五一一七六)

嘉永四亥年十月廿六日入牢  
大阪三郷町中引廻之上  
無宿  
江州の  
熊吉  
亥廿歳

固辞明、押入候物音ニ驚、家内之もの逃退候跡ニ而  
盗いたし、又者音吉并無宿髮結の松太郎・右栄助・  
平吉・与吉等申合、所々人家表之戸建寄有之を明、  
或表之戸明掛有之内江入、致盜候節々、松太郎者表  
口ニ而往来人を心付罷在候而已ならず、芳松老人立  
候而も寺院裏口之戸明掛り有之内江入、又ハ人家壁  
之腰板を固辞外し這入、盗いたし候段、不届之科、  
同年十二月十一日行之

(五一一七七)

同日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
同  
阿波の  
卯之助  
亥廿一歳

同年十二月十一日行之

(五一一七五)

無宿  
兵庫の  
常吉  
亥廿七歳

嘉永四亥年七月九日入牢  
一死罪

(五一一七八)

同日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
同  
平野の  
吉兵衛  
亥式拾歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、

入墨入直大坂三郷弘、猶又重敲等申付候身分不届、

所々人家表之戸又者納屋之戸固辞明、或表之戸掛ケ

鉄を外し明這入、致盜候段、不届之科、同年十二月

十一日行之

此もの共儀、熊吉・卯之助者先達而致盜、熊吉者重敲、

卯之助者入墨之上重敲申付候身分不届、此もの共并

行衛不知無宿大坂の浅吉等追々申合、所々人家表之

戸固辞明這入、又者石を以打割押入、家内之もの起

(五一一八〇)

合候節々、熊吉頭取、銘々持居候抜刃を振上ヶ、声立候者可切殺旨申威、刺長堀心齋橋町ニ而者家内之もの立向ひ候儀を心憎存候迎、卯之助儀右之ものを捻伏、抜刃を以疵付、盗いたし候段、強盜之至、殊

数度之儀、然而已ならず、所々ニ而往来人を捕候而も、前同様申威錢品奪取、又者衣類剥取候始末、別而不届至極之科、同年十二月十一日行之

嘉永四亥年五月十八日入牢  
一死罪

無宿  
御咲の  
松之助  
亥廿四歳

(五一一七九)

嘉永四亥年五月十四日入牢  
一死罪

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨之上重敲、敲之上輕追放、猶中重追放等申付候身分不慣、御構場江立入候而已ならず、死亡無宿河原村の秀吉并行衛不知無宿嘉吉等申合、此もの者辺ニ往来人を心付罷在、秀吉・嘉吉儀寺院庫裏之戸建寄有之を明這入、致盜候段、不届之科、同年十二月十九日行之

無宿  
伊丹の  
作兵衛  
亥三拾一歳

此もの儀、先達而盜又者不届有之、入墨敲、重敲中追放等申付候身分不慣、人家職仕事場入口之戸明掛有之内江入、盗いたし候而已ならず、於途中無宿異名髮結与申者ニ出会、同人儀此もの同様九州路江立越候ニ付而者途中不案内ニ付、同道いたし呉候者右之もの所持之品を売払、代錢を以路用賄遺候間、右品俱々持行呉候様相頼候付、右者身分不相応之品ニ而盜ものニも可有之与乍心付、欲心ニ迷ひ聞請、右品代り合持行遣、酒食振舞請、又者旅籠代等賄賈候段、不届之科、同年十二月十九日行之

(五一一八一)

嘉永四亥年五月十日入牢  
無宿  
かわちの

嘉永四亥年十月十日入牢

無宿  
かわちの

一死罪

庄左衛門  
亥三拾三歳

此もの儀、先達而横取いたし、入墨敲申付候身分不  
慎、無宿岩田村の亀吉・同新五郎事利吉并三行衛不  
知同いせの佐兵衛等追々手合を替申合、又者此もの  
老入立、所々人家表之戸建寄有之を明ヶ這入、或裏  
手壁之破レ、又者裏口之戸明掛有之内江入、盗いた  
し候段、不届之科、同年十二月十九日行之

(五一二八二)

松平大膳大夫領分

防州佐防郡三田尻

新五郎所持廻船

永吉丸雇船頭

嘉永四亥年十一月七日入牢  
一死罪

松五郎  
亥廿七歳

此もの儀、自分乗組居候廻船与書面三田尻音藏所持  
之廻船与繋合セ、土佐堀老丁目浜先ニ滞船いたし居  
候内、同人始乗組之もの上陸いたし、辺三人不居合  
躰及見候合当座之出来心与者乍申、右音藏船江這入、

體之方簀板之下ニ差人有之候金子盗取、追而取出可  
遣捨与当分辺之川岸土中江埋隠置候段、不届之科、  
同年十二月十九日行之

(五一二八三)

元柴田日向守掛

左衛門尉掛

嘉永四亥年四月十五日入牢

大坂三郷町中引廻之上

一死罪

直次郎  
亥廿三歳

此もの儀、死亡無宿藤吉申合、又者老入立、所々人  
家表裏口之戸明掛有之内江入、盗いたし并店先ニ有  
之品等盗取、播州国包村・西中村ニ而ハ藤吉重立、  
帯居候脇差を抜、家内之もの臥居候蚊帳之釣手を切  
落し、声立候ハ、可切殺旨申威、同州垂水村ニ而も  
人家之者を括置、蠟燭ニ火を付、金銀入所穿鑿いた  
し居候内、火屑落散燃出候ニ驚、括置候ものを解遣  
逃去候処、右人家隠宅之屋根廻り致焼失候仕儀ニ至

り候始末、別而不屈之科、同年十一月廿一日行之

(五一二八四)

左衛門尉掛

無宿

嘉永四亥年十月廿五日入牢

郡山の

一死罪

松次郎  
亥廿貳歳

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候身分不  
慎、行衛不知無宿弥吉申合、所々人家入口之障子又  
者裏口之戸明掛り有之内江同人逼入、此もの者外ニ而  
人参り候を心付、致盜候段、不屈之科、同年十二月  
十一日行之

(五一二八五)

無宿

嘉永四亥年十一月六日入牢

堺の

一獄門

米吉  
亥廿貳歳

(五一二八六)

同

同月三日入牢

榎屋町の

一死罪

寅吉  
亥三拾歳

此もの共儀、先達而盜又者不屈有之、米吉者三ヶ度  
敲入墨、敲之上輕追放申付、寅吉ハ入墨之上重敲并  
重敲申付候身分不慎、米吉ハ御構場江立入、老人立、  
辻合木戸ハ搔上り、人家二階窓之透今竹を入、搔出  
し盗いたし、又者行衛不知無宿与三吉・安吉申合、  
人家表之戸固辞明逼入、或者此もの共行衛不知無宿  
浅吉申合、淡路町壺丁目人家表之戸石を以打破り、  
米吉・無宿浅吉押入、寅吉ハ辻合ニ而往來人見張い  
たし候処、家内之もの起合相咎候由、米吉帯居候脇  
差抜持、頭取、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、  
衣類盜取、又者米吉老人立、松江町人家表之戸脇差  
を以固辞明候節、家内之もの起合、盜賊之由声立騒  
候付、戸之透今右脇差差入、金銀可差出、声立候ハ、  
可殺旨申威候折柄、追々人集いたし、外壺ヶ所ニ而

も同様固辞明掛ケ候節、是又家内之もの起合声立候付、不得物取候共、右始末別而不届至極之科、同年十二月十一日行之

(五一二八七)

嘉永四亥年十月廿五日入牢  
一死罪

無宿  
江州の  
菊 松  
亥廿貳歳

(五一二八八)

同日入牢  
一死罪

同  
兵庫の  
佐 吉  
亥三拾歳

(五一二八九)

同日入牢  
一死罪

同  
和州の  
富 吉  
亥拾九歳

此もの共儀、菊松者先達而致盜、入墨敲申付候身分不慣、同人壱人立、人家入口竿三千有之品盜取、又者富吉手合ニ而人家メリ無之兩戸引明遁入盜いたし、其上此もの共儀行衛不知無宿寅吉申合、撰州本庄村人家表之戸を焼切、手を入掛ケかねを外し明這入候折柄、女壱人起合相咎候迎、寅吉頭取、金銀可差出旨申聞、不声立様同人者手拭を以、右女口を括掛、佐吉ハ携參候鉄棒を為見為恐、錢品盜取、殊菊松儀無宿亀吉ハ壳捌之儀被頼候大豆品者盜取候趣乍承、引請預り罷在候始末、一同不届之科、同年十二月十六日行之

(五一一九〇)

嘉永四亥年十月廿五日入牢  
一死罪

無宿  
上町の  
藤 吉  
亥拾九歳

(五一一九一)



同日入牢  
一死罪

同

江州の

伊三郎  
亥廿四歳

此もの共儀、先達而盗いたし、入墨之上重敲、藤吉者猶不屈有之、三十日手鎖重敲等申付候身分不慎、申合人家表之戸固辞明這入、盗いたし候段、不屈之科、同年十二月十六日行之

(五一一九二)

嘉永四亥年十月廿五日入牢  
一死罪

無宿

阿波の

喜助  
亥廿五歳

此もの儀、先達而盗又者不屈有之、入墨之上重敲、猶重敲申付候身分不慎、死亡無宿尼の平吉申合、人家表格子之透合手を入、建寄有之戸を明、刃之品引取盗取候段、不屈之科、同年十二月十六日行之

(五一一九三)

嘉永四亥年十月廿七日入牢  
一死罪

当時無宿

秀吉  
亥拾八歳

此もの儀、所々宿屋江参り、其身之出所を色々申威、座敷又者二階江通り罷在候内、相客等之目間見合傍并隣座敷ニ差置有之金拾両壹分式朱銀札品度々盗取候始末、不屈之科、同年十二月十六日行之

(五一一九四)

嘉永四亥年十月廿五日入牢  
一獄門

無宿

新地の

岩吉  
亥廿四歳

此もの儀、先達而致盗、敲申付候後、猶又盗不屈有之被捕候節、右前科押包、入墨之上軽追放申付候身分不慎、御構場江立入、死亡無宿富吉申合、湊橋町人家表之戸固辞明這入候節、家内之もの起合相答候込、富吉儀懐劍拔持、頭取、金銀可差出、声立候ハ、可殺旨申威、盗いたし、阿波堀町人家ニ而も同様、

此ものハ最前盜取候脇差拔持、富吉ハ懐劍拔持、同人頭取、前同様申威、致盜候而已ならず、行衛不知無宿国藏申合、往來人前後を取巻、此もの手拭を咽

喉江掛ケ、引倒打転候節、懷中之金品度毎奪取候始末、不届至極之科、同年十二月十九日行之

(五一一九五)

設樂八三郎御代官所

摂州西成郡曾根崎村

九兵衛支配借家

いよ同居

弥三郎  
亥三拾貳歳

嘉永四亥年十月廿五日入牢  
大坂三郷町中引廻之上  
一死罪

此もの儀、行衛不知無宿卯之助申合、所々人家壁切破、表裏口之戸固辞明立入、又者裏口并横手入口之戸明掛有之内江入、或格子之透合手を入、盗いたし候段、別而不届之科、同年十二月十九日行之

(五一一九六)

嘉永四亥年十一月六日入牢  
一獄門

無宿

平野の

弥七  
亥三拾六歳

此もの儀、辻合ニ而往來人を捕、着用物可脱渡、声立候ハ、身為不宜旨、言葉突ニ申威、又ハ出刃庖丁を持、猶予いたし候ハ、可殺杯申威、着用もの剝取候而已ならず、人家表口戸之透合手を入、右戸を引放し、或固辞明立入、盗いたし、又者湯屋江入湯ニ罷越候節、外人湯人脱置候衣類与着替、盜取候始末、不届至極之科、同年十二月十九日行之

(五一一九七)

無宿

馬方の

龜吉  
亥廿七歳

嘉永四亥年十一月二日入牢  
一死罪

此もの儀、先達而致盜、入墨之上重敲申付候処、右入墨を消候付、入墨入直之上大坂三郷弘申付候身分不慎、御構場江立入、所々人家格子之透合手を入、

盗いたし候段、不屈之科、同年十二月廿一日行之

(五一一九八)

無宿

嘉永四亥年十一月十八日入牢

長柄市事

一死罪

市 松  
亥廿七歳

此もの儀、先達而不届有之、中重追放、重敲之上重  
追放申付候身分不愼、御構場江立入、往来人着用之  
木綿伴天ハ盗物ニ而目印有之候間、可脱渡旨申聞、  
出所之申披いたし候を達而同様之儀強勢ニ申罵、右  
品ゆすり取、質入いたし、代錢遺捨候始末、不屈之  
科、同年十二月廿一日行之

合九拾八人

子二月

本多加賀守

川路左衛門尉

本多加賀守

川路左衛門尉

亥正月台同十二月中

一牢舎人数高 貳千五百六拾七人

午年入牢 壹人

申年入牢 六人

但酉年入牢 四拾三人

戌年入牢 四百五拾三人

亥年入牢 貳千六拾四人

内

町中引廻獄門

拾七人

町中引廻死罪

拾二人

獄門

拾六人

死罪

五拾三人

町中引廻之上火罪  
可申付処、愚昧之上  
氣むら者之儀ニ付、  
親類共江引渡、押込

壹人

置候様申渡

遠島

入墨入直、右入墨之  
際江猶又入墨之上  
追放

最前之入墨際江  
猶又入墨之上追放

入墨敲之上追放可  
申付候処、非人手下  
之儀ニ付、入墨之上  
長吏共江引渡、敲之上  
追放相当之仕置  
可申付旨申渡

入墨入直、追放  
入墨入直、大坂三郷扱

五人

壹人

壹人

壹人

三人  
壹人

刀・鶯口取上、入墨  
之上追放

入墨之上追放

入墨之上追放可  
申付処、穢多之儀ニ付、  
入墨之上穢多村  
年寄江引渡、相当之  
仕置可申付旨申渡

入墨之上所を構、  
大坂三郷扱

入墨之上大坂三郷扱

入墨之上大坂三郷扱  
可申付処、穢多之儀  
ニ付、入墨之上穢多村  
年寄江引渡、相当之  
仕置可申付旨申渡

三六

壹人

三人

貳人

壹人

壹人

壹人

入墨敲

貳百拾三人

入墨敲可申付処、女之儀ニ付、入墨之上過怠牢

三人

入墨敲可申付処、

穢多之儀ニ付、入墨

之上穢多村年寄江

引渡、相当之仕置

可申付旨申渡

拾貳人

入墨敲可申付処、致盜候節者幼年ニ付、入墨

壹人

入墨敲可申付処、

穢多之儀ニ付、入墨

之上穢多村年寄江

引渡、相当之仕置

可申付旨可申渡処、

致盜候節者幼年

之儀ニ付、入墨

壹人

入墨敲可申付処、無宿幼年之儀ニ付、入墨

貳人

入墨敲可申付処、幼年之儀ニ付、入墨

壹人

入墨敲可申付処、

非人手下之儀ニ付、

入墨之上長吏共江

引渡、相当之仕置

可申付旨申渡

壹人

入墨敲可申付処、幼年其上女之儀ニ付、過怠牢

壹人

入墨

三人

敲之上追放

(ママ)

敲之上追放可申付処、  
穢多之儀ニ付、穢多村  
年寄江引渡、相当之  
仕置可申付旨申渡

壹人

追放

貳拾五人

追放可申付処、穢多  
之儀ニ付、穢多村年寄江  
引渡、相当之仕置可  
申付旨申渡

貳人

所持之品取上、撰河  
兩國弘

壹人

撰河兩國弘

拾貳人

敲之上大坂三郷弘

四人

家財取上、所を構、

大坂三郷弘

三八

家財取上、大坂三郷弘

壹人

所を構、大坂三郷弘

四人

大坂三郷弘

貳人

敲之上所弘

拾壹人

所弘

七人

大坂三郷ニ罷在間敷

三拾七人

鉄炮取上、所弘

壹人

買取致所持居候品  
取上、所弘

壹人

致所持居候品品  
取上、所弘  
(ママ)

貳人

所弘可申付処、無宿  
之儀ニ付、大坂三郷  
弘

貳人

貫請候品并預り

置候品共取上、敲

沓人

駄賃錢取上、敲

沓人

駄賃錢取上、敲可

申付処、穢多之儀

二付、穢多村年寄江

引渡、相当之仕置可

申付旨申渡

沓人

敲

三百七拾五人

敲可申付処、穢多之

儀二付、穢多村年寄江

引渡、相当之仕置可

申付旨申渡

拾七人

敲可申付処、非人手

下之儀二付、長吏共江

引渡、相当之仕置可

申付旨申渡

沓人

敲可申付処、非人

之儀二付、長吏共江

引渡、相当之仕置

可申付旨申渡

沓人

敲可申付処、女之儀

二付、過怠牢

六人

敲可申付処、致盜候節ハ  
幼年之儀二付、過怠牢

沓人

敲可申付処、幼年之  
儀二付、過怠牢

式人

敲可申付処、幼年  
其上非人手下之儀二付、

長吏共江引渡、手鎖

相当之咎可申付旨

申渡

沓人

手鎖

五人

押込

壹人

牢死

四百拾五人

下宿所預中逃去

七人

下宿所預中病死

四拾七人

於高原溜、手鎖可  
申付処、数日入牢  
之儀ニ付、咎之不及

壹人

旅宿預中病死

壹人

沙汰

高原溜預中病死

貳百六拾貳人

過料

貳人

品取上、叱り

壹人

重病ニ付、下宿所  
預ニ而去亥年今  
当子年江越候者

百貳拾三人

叱り

貳人

叱り置可申処、穢多  
之儀ニ付、穢多村年寄江  
引渡、相当之咎可申  
付旨申渡

壹人

高原溜預ニ而去  
亥年今当子年江  
越候者

五拾六人

咎之不及沙汰

五人

旅宿預ニ而去亥年今  
当子年江越候者

拾九人

江戸町奉行江引渡

貳人

松平阿波守江引渡

貳人

無權出牢

四百拾壹人

請人預ニ而去亥年今  
当子年江越候者  
合貳千貳百六拾壹人

四人



残而三百六人 是者子年江越

(朱世)

「此外年を越候牢舎無御座候」

以上

子二月

本多加賀守

川路左衛門尉

於堺、去亥年死罪之者并牢舎之者  
之儀、堺奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

於堺、去亥年死罪之者科書老冊、牢舎之者人数書付老  
通、石谷因幡守差出候間、入御披見候、以上

閏二月六日

(内表紙)

「嘉永四亥年堺ニ而死罪之者科書

石谷因幡守」

(五二二〇一)

大坂町奉行所の刑事判例(二)

嘉永三戌年十月十八日入牢

一死罪

無宿

松嘉の

松次郎  
拾八歳

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、

無宿堺の弥三郎・同江戸の松吉申合、撰州中筋村出

屋敷井関新町伊兵衛門ト先ニ差置有之候本在家町留

松所持荷籠内ニ有之候金子入之財布盜取候科、同四

亥年三月十三日行之

(五二二〇二)

嘉永三戌年十月十八日入牢

一死罪

無宿

下宮の

牢死 喜 蔵  
(年齢不詳)

此者儀、泉州下宮村喜兵衛方外老ケ所表口戸明懸り

有之内江入、或者同州大野村与左衛門方外式ケ所ニ

而、内老ケ所者不得物取候とも、土蔵メリ戸炭火を

以焼拔這入、衣類其外盜取、猶無宿春木川の清蔵申

合、右与左衛門方表口戸明掛り有之内江入、致盜候

科、存命ニ候得者死罪可申付者ニ候段、一件のもの

江同四亥年三月十三日申渡候

(五一二〇三)

渡辺備中守領分

泉州泉郡板原村

嘉永三戌年十月十八日入牢

次郎左衛門同居悴

一獄門

牢死 萬 吉

(年齢不詳)

此者儀、泉州板原村平左衛門宅表口戸固辞明ケ這入候処、同人起合候付、被見知間敷与傍ニ有之火鉢之

灰を同人面鉢江投掛ケ候処、右物音ニ而娘しつ起出、盜賊之旨声立捕掛り候付、其場を可遁与出刃庖丁を

以、しつ江切付候儘、不得物取逃去、其後猶又右平左衛門方外囲無之土蔵壁切破這入、木綿反もの盜取

候科、存命ニ候得者獄門可申付者ニ候段、一件之者

江同四亥年三月十三日申渡候

(五一二〇四)

嘉永三戌年十月十九日入牢

無宿

一死罪

磯上の

音 松

三拾歳

此者儀、致盜候付、敲并入墨之上重敲申付候身分不  
慎、泉州額原村茂左衛門宅外式ケ所表口メリ戸木切

を以、固辞明ケ這入、衣類其外盜取候科、同四亥年

三月十三日行之

(五一二〇五)

嘉永三戌年十一月七日入牢

当時無宿

一町中引廻し獄門

善 助

式拾五歳

此者儀、大町濱佐兵衛方江被日雇中遊興ニ金銀遣過  
候今存付、同人者兼而両替渡世市之町半兵衛・甲斐

山口町五兵衛与者手形を以金銀取遣致し候間柄ニ而、

右使ニ此者罷越候儀有之、手形認振佐兵衛手跡印判

之恰好等迄能見覚居候付、贋手形取拵、金子可銜取

与存付、印判彫刻職甲斐町幸右衛門を申透、文字恰

好等右手形ニ相用候印判同様ニ為致彫刻、佐兵衛之筆意ニ見紛候様自筆ニ認、右印判押居、金子可渡旨半兵衛宛之手形壹枚取拵、櫛屋町繁次郎を欺、使相頼、半兵衛方ニ而引替貫、正金易々街得候分猶惡心致増長、此上者過分之金銀取之心儘ニ遊樂可致与猶又金銀高之手形四枚前同様ニ取拵、南中之町藤助外式人は又申欺、使ニ頼、猶又半兵衛并五兵衛方ニ而夫々正金銀与引替貫、内式枚者五兵衛方ニ而怪敷心付、金子不相渡候与茂、右林謀書・謀判之手形を以、都合金百九拾七両三步与銀式匁壹分街取候科、同四亥年三月十三日行之

(五二一〇六)

嘉永三戌年十二月十一日入牢  
一町中引廻し死罪

無宿  
米寅の  
牢死 平兵衛  
(年齢不詳)

(五二一〇七)

同日入牢 同  
鬼味噌の  
伊之助  
三拾六歳

(五二一〇八)

同日入牢 同  
炭吉の  
幸三郎  
貳拾九歳

(五二一〇九)

同日入牢 同  
金八の  
牢死 政 吉  
(年齢不詳)

此者共儀、申合又者岩人立、戎橋東穀物町五兵衛方外拾四ヶ所塀を乗越、表裏之入口或者納屋メリ戸木切を以固辞明ヶ、又者炭火を以焼拔、平兵衛者拾五ヶ度、伊之助・幸三郎者拾ヶ度、政吉者壹ヶ度盜働、猶又幸三郎を除、紺屋町庄兵衛とも申合、南中之町

下濱次兵衛方外式ヶ所ニ而表并納屋入口戸明掛り有之内江入、或者軒下ニ積有之候品盜取候科、同四亥年三月廿一日行之、平兵衛・政吉儀も存命ニ候得者平兵衛者同様、政吉者死罪可申付者ニ候段、一件之もの江同日申渡候

(五二二一〇)

嘉永三戌年十二月十一日入牢  
無宿  
穢多  
駒  
吉  
一死罪  
拾九歳

此者儀、敲并入墨之上重敲可申付処、穢多之儀ニ付、入墨之外者泉州舳松之内塩穴穢多年寄江引渡、相当之仕置為申付候身分不慎、老入立、又者無宿穢多与作申合、町家六ヶ所表口戸明掛り有之内江入、衣類其外盜取候科、同四亥年三月廿一日行之

(五二二一一)

無宿

嘉永四亥年三月十八日入牢  
一町中引廻し獄門

紀州の  
由兵衛  
式拾七歳

此者儀、北之端罷通り候節、出会候名前不存旅人跡之者着用之衣類剥取可申与立向候処、盜賊之趣声立候付引倒、人家往還ニ隔有之候北之端並松拜借地之上、喜兵衛所持物置場板囲内江無鉢ニ引摺參、猶も声立候迎、傍ニ有之割木を以打殺、着用之衣類其外剥取候科、同月廿八日行之

(五二二一二)

嘉永四亥年六月二日入牢  
無宿  
一死罪

りう  
式拾九歳

此者儀、先達而取逃致し候付、入墨之上敲、猶又不届有之重敲可申付処、女之儀ニ付、入墨之上両度とも過怠牢申付候身分不慎、行衛不知無宿阿波の和三郎申合、鎰町吉兵衛方居宅壁、此者所持之庖丁を以切破、兩人とも這入、店之間ニ有之候錢盜取候科、

同年八月十三日行之

(五二二一三)

嘉永四亥年六月二日入牢  
新樽屋町忠兵衛  
借屋

一死罪

牢死

庄七  
(年齢不詳)

此者儀、河州長野村氏神境内ニ有之候外圍無之土藏  
戸前炭火を以焼拔、又者同村国助方表口メリ戸木切  
を以固辞明ケ這入、幟其外盜取候科、存命ニ候得者  
死罪可申付ものニ候段、一件之もの江同年八月十三  
日申渡候

(五二二一四)

片桐助作領分

泉州泉郡下條大津村

嘉永四亥年六月廿八日入牢

茂兵衛借屋

一獄門

武兵衛

三拾四歳

此者儀、困窮之余、泉州伯太領分通用銀壹匁之賈銀  
札取拵可致掠取与存付、板木押印等致彫刻、賈銀札

都合拾四枚取拵、家賃銀并買もの代ニ相渡、又者所  
持を茂致候科、同年八月十三日行之

(五二二一五)

嘉永四亥年六月二日入牢  
無宿  
堺の

一町中引廻し死罪

朝吉  
式拾七歳

此もの儀、盜又者不届有之、当表并大坂町奉行所ニ  
おゐて入墨之上重敲并入墨入直し、重敲之上重追放  
等相成候身分不慎、泉州逆瀬川村善右衛門方表口戸  
明掛り有之内江入、箆筒引出し錠前鑿を以固辞外し、  
外八ヶ所ニ而者居宅并土藏メリ戸所持之鑿を以固辞  
明ケ這入、金錢衣類其外品々盜取候科、同年九月  
十三日行之

(五二二一六)

嘉永四亥年六月廿三日入牢

無宿

小桜の

一町中引廻し死罪

定吉  
式拾七歳

此者儀、致盜候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、  
壹人立又者行衛不知無宿音吉・同徳松申合、泉州吉  
井村次右衛門方外六ヶ所ニ而、表口井土蔵入口メリ  
戸炭火を以焼切、或者庖丁を以固辞明ケ遁入、途中  
ニ而往来之女脊負居候蒲団、畑中ニ脱置有之候衣類  
其外盜取候科、同年九月十三日行之

(五一二一七)

嘉永四亥年七月五日入牢  
一町中引廻し死罪

無宿  
山家屋の  
徳松  
拾九歳

(五一二一八)

同日入牢  
一同

同  
堺の  
熊吉  
三拾歳

此者共儀、壹人立又者行衛不知無宿定吉外式人とも  
夫々申合、少林寺町寺町少林寺境内庄兵衛方外拾壹  
ヶ所ニ而表メリ戸木切ニ而固辞明ケ、又者堀を乗越、  
寺院本堂或者部屋入口メリ戸を茂固辞明ケ、徳松者  
九ヶ度、熊吉者六ヶ度遁入、衣類其外銭等盜取、猶  
徳松者町家軒下ニ千有之品、又者表口戸明掛り有之  
内江も入、盜致し候科、同年九月十三日行之

(五一二一九)

嘉永四亥年七月廿五日入牢  
一死罪

無宿  
穢多  
忠五郎  
式拾五歳

(五一二二〇)

同日入牢  
一同

同  
有田の  
牢死  
平四郎  
式拾五歳

此者共儀、行衛不知無宿大坂の三治・同穢多太吉申合、桜町佐兵衛方裏手外圍無之土蔵窓鉄もの、三治・太吉傍ニ有之候丸太を以固辭外し這入、此者共者致外見衣類其外盜取候科、同年十月二日行之、平四郎儀茂存命ニ候得者同様可申付者ニ候段、一件のもの江同日申渡候

(五一二二二)

嘉永四亥年八月七日入牢  
一死罪

無宿

風呂屋の

徳 松

式拾六歳

此者儀、盜并衝致し候付、入墨之上重敲申付候身分不慎、宿院町弥兵衛外傭人使之由申偽、紺屋町善兵衛代判治郎助方ニ而鑿節其外衝取候科、同年十月二日行之

(五一二二三)

無宿

嘉永四亥年八月廿一日入牢  
一死罪

茶屋の

力 松

式拾六歳

(五一二二四)

同日入牢  
一同

同

江戸の

藤 吉

式拾七歳

此者共儀、力松者盜又者不屈有之、入墨之上重敲、其後過料可申付処、無宿之儀ニ付、於小屋三十日手鎖申付候処、其以前傭人立、甲斐町濱善次郎方外圍無之土蔵メリ戸木切を以固辭明ヶ這入、盜致し、右吟味之節、右盜口者押包、其後兩人并行衛不知九間町寺町経王寺境内由兵衛申合、寺地町寺町旭蓮社外傭ヶ寺表門メリ戸木切を以固辭明ヶ、或者外圍之堀を乗越這入、致盜候科、同年十月二日行之

(五一二二五)

無宿

(五一二二六)

嘉永四亥年十一月二日入牢  
無宿  
大福の  
市 藏  
一死罪  
三拾歳

此者儀、致盜候付、於大坂町奉行所入墨之上重敲相成候身分不慎、河州内村名不存百姓家三ヶ所ニ而表口戸木切を以固辭明ヶ遁入、衣類其外盜取候科、同年十月廿五行之

(五一二二五)

嘉永四亥年十月廿一日入牢  
無宿  
坊主の  
如 柳  
一死罪  
三拾歳

此者儀、致盜候付、於大坂町奉行所入墨之上重敲相成候身分不慎、行衛不知無宿阿州の真道申合、又者老入立、泉州内畑村長光寺庫裏入口戸木切を以固辭明ヶ遁入、仏具其外盜取候科、同年十二月十九日行之

此者儀、先達而致盜候付、於奈良奉行所入墨之上重敲、其後不屈有之、重敲之上重追放、猶又御構場所江立入候付、増入墨之上重追放等申付候身分不慎、泉州内村名不存百姓家三ヶ所ニ而表口戸明掛り有之内江入、蒲団其外盜取、又者街道ニ而旅人躰之男脊負居候金錢其外奪取候科、同年十二月十九日行之  
合貳拾六人

子  
二月  
石谷因幡守

石谷因幡守

亥正月六十二月中

一堺揚り屋牢舎惣人数 七百四拾六人



但 戌年入牢 四拾九人  
亥年入牢 六百九拾七人

内

町中引廻し獄門

貳人

入墨入直し之上堺両郷払

壹人

獄門

壹人

町中引廻し死罪

六人

入墨入直し之上堺両郷払

三人

存命ニ候得者町中引廻し

死罪可申付者ニ候段、

一件之もの江申渡

壹人

入墨敲

三拾四人

死罪

拾壹人

入墨敲可申付処、女之儀ニ付、  
入墨之上過忘牢

三人

存命ニ候得者死罪可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡

三人

存命ニ候得者入墨敲可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡

三拾貳人

遠島

貳人

入墨敲可申付処、穢多之

儀ニ付、入墨之上居村

穢多年寄江引渡、相当

之仕置可申付旨申渡

貳人

増入墨之上追放

貳人

入墨之上追放

貳人

入墨敲可申付処、穢多之儀ニ付、  
入墨之上泉州舳松村之内  
塩穴穢多年寄江引渡、  
相当之仕置可申付旨申渡

式人

敲之上追放可申付処、  
穢多之儀ニ付、泉州舳松村  
之内塩穴穢多年寄江  
引渡、相当之仕置可申付旨  
申渡

式人

存命ニ候得者入墨敲可申付処、  
穢多之儀ニ付、入墨之上泉州  
舳松村之内塩穴年寄江  
引渡、相当之仕置可申付ものニ  
候段、一件之者江申渡

三人

入墨

式人

存命ニ候得者敲之上追放  
可申付処、穢多之儀ニ付、  
泉州舳松村之内塩穴  
穢多年寄江引渡、相当  
(朱書ニ渡)  
之仕置可申付者ニ候段、  
一件之もの江申渡

式人

存命ニ候得者入墨可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡

式人

追放  
敲

拾人  
百九拾三人

敲之上追放

六人

敲可申付処、女之儀ニ付、  
過怠牢

拾式人

存命ニ候得者敲之上追放  
可申付者ニ候段、一件之者江  
申渡

式人

敲可申付処、拾五歳以下  
之儀ニ付、過怠牢

式人

存命ニ候得者敲可申付者ニ  
候段、一件之もの江申渡  
五拾人

存命ニ候得者泉州払可申付  
者ニ候段、一件之者江申渡  
式人

存命ニ候得者敲可申付処、  
女之儀ニ付、過怠牢可申付  
ものニ候段、一件之もの江申渡  
壹人

家財取上、居町を構、堺両郷払  
五人  
家財取上、居村を構、堺両郷払  
式人

敲可申付処、穢多之儀ニ付、  
泉州舳松村之内塩穴穢多  
年寄江引渡、相当之  
仕置可申付旨申渡  
三人

存命ニ候得者家財取上、  
居村を構、堺両郷払可  
申付ものニ候段、一件之者江  
申渡  
三人

存命ニ候得者敲可申付処、  
穢多之儀ニ付、泉州舳松村  
(朱世)「穢多」  
之内。塩穴年寄江引渡、  
相当之仕置可申付者ニ候段、  
一件之者江申渡  
壹人

雜物取上、居村を構、堺両郷払  
三人

敲可申付処、所預ケ中出奔  
壹人

存命ニ候得者雜物取上、  
居村を構、堺両郷払  
可申付ものニ候段、一件之者江  
申渡  
式人

泉州払  
四人

家財取上、堺両郷払  
五人

存命ニ候得者家財取上、  
堺両郷弘可申付者ニ候段、  
一件之者江申渡  
一人

牢死  
合七百一人  
外ニ去々戌年牢死  
六拾三人

雜物取上、堺両郷弘  
四人

存命ニ候得者獄門可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡  
一人

雜物取上、居町を構、堺  
両郷弘可申付処、  
所預ケ中出奔  
一人

存命ニ候得者死罪可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡  
一人

「私」(朱書)  
所預  
五人

存命ニ候得者入墨之上追放  
可申付ものニ候段、一件之者江申渡  
一人

存命ニ候得者所弘可申付  
之ものニ候段、一件之者江申渡  
於小屋手鎖  
一人

存命ニ候得者入墨敲可申付  
ものニ候段、一件之者江申渡  
一人

押込置候様、夫江申渡  
一人

世話料取上、過料  
一人

旧悪ニ付、咎之沙汰不及旨申渡  
一人

申口相合、出牢  
貳百一人

右同断下宿所預ケ中病死  
存命ニ候得者雜物上、堺両郷  
弘可申付ものニ候段、一件之者江  
申渡  
一人

牢舎不申付、

所私

式人

残而

在牢 四拾五人 是者子年江越

〔朱書〕  
「此外年を越候牢舎無御座候」

以上

子二月

石谷 因幡守

本多加賀守

川路左衛門尉

六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上  
置候処、落着仕候儀、当地町奉行  
申聞候趣、申上候書付

土屋 采女正

六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置候処、落着仕  
候付、申上候書付老冊、本多加賀守・川路左衛門尉差

出候付、入御披見候、以上

〔関二〕(朱書)  
三月六日

(内表紙)

「六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置  
候処、落着仕候付、申上候書付

御扣(朱書)

加賀守掛

無宿

嘉永四亥年六月十四日吟味  
一 盜并持運

池田の  
万 吉

一 盜品売捌遣 一件  
一 代錢賈請

〔朱書〕  
「右万吉儀、未済之儀書上候節者

池田の萬吉与書上候処、同人儀  
当二月十六日病死仕候」

同

京の  
萬 吉

〔朱書〕  
「右萬吉儀、未済之儀書上候節者

京の万吉与書上申候」

無宿

大坂の

長四郎

土屋采女正

吟味六ヶ月以上未済書付老冊、本多加賀守・川路  
左衛門尉差出候付、進達之仕候、以上

閏二月六日

〔内表紙〕

「吟味六ヶ月以上未済書付

御扣〔朱書〕

本多加賀守

川路左衛門大尉

右一件吟味未済之儀、去亥十二月書上置候処、病  
氣之者快氣仕候付、吟味仕御仕置之儀、土屋采女  
正江相達、差図之上落着申渡候

〔朱書〕

「書面題号之儀未済書上候節者、致盜候一件与

書上申候」

加賀守掛

無宿

右者先達而書上置候六ヶ月以上吟味落着仕候付、申  
上候、以上

嘉永四亥年八月十八日吟味

一盗いたし候一件

堺の

藤吉

子  
二月

本多加賀守

川路左衛門尉

同

三番の

常吉

同

堺の

卯之助

吟味六ヶ月以上未済儀、当地町奉行  
申聞候趣、申上候書付

無宿

あまの

安 吉

同

大坂の

福 松

同

ゑ戸の

勝 蔵

同

安立町の

徳 松

右一件及吟味候処、病氣之者有之、吟味延引仕候

右六ヶ月以上吟味相濟不申候付、申上候、以上

子  
二月

本多加賀守

川路左衛門尉

吟味十ヶ月以上未済儀、当地町奉行

申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

吟味十ヶ月以上未済書付老冊、本多加賀守・川路

左衛門尉差出候付、進達之仕候、以上

閏二月六日

(内表紙)

「吟味十ヶ月以上未済書付

御扣(未世)

本多加賀守

川路左衛門尉

加賀守 掛

左衛門尉

船越兵庫知行所

摂州豊鳴郡今在家村

大庄屋

一地頭申付を難渋いたし候一件 八左衛門

右ニ携候者共

右一件、去亥四月廿二日吟味仕候処、藤掛出

羽守江問合、猶又取調之儀有之、延引仕、当時

吟味中御座候

元中野石見守

加賀守 掛

吟味中御座候

一 焼銭致売買候一件

山崎町

勘 兵衛

元柴田日向守

左衛門尉 掛

右ニ引合候者

松平駿河守領分

予州越智郡津嶋村

神吉丸直乗船頭

右一件、去々戌五月七日吟味仕候処、江戸町奉行江問合、猶又御勘定奉行江問合之儀有之、延引仕、当時吟味中御座候

一 武家方廻米盗売いたし候一件

佐吉雇加子

伊 三郎

加賀守掛

清水領

泉州泉郡大沢村

一 地所糺出入

訴訟方

庄 屋

年 寄

右之通御座候、以上

子 二月

本多加賀守

川路左衛門尉

刑部卿殿領知

同州同郡内畑村

相手方

庄 屋

年 寄

右一件、去亥四月十三日吟味仕候処、対談致度由

ニ而追々日延相願、又者病氣之者有之延引仕、当時

六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置候処、病死仕候儀、当地町奉行申聞候趣、申上候書付

土屋采女正



六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置候処、病死仕候付、申上候書付老冊、本多加賀守・川路左衛門尉差出候間、入御披見候、以上

閏二月六日

(内表紙)

「六ヶ月以上吟味未済、去亥十二月書上置

候処、病死仕候付、申上候書付

御扣(朱書)

本多加賀守

川路左衛門尉

加賀守掛

無宿

嘉永四亥年六月十四日吟味

大野屋の

一 賈金取拵候由

徳次郎

一 相聞候一件

同

十助事

弥右衛門

右一件吟味未済之儀、去亥十二月書上置候処、未吟

味不取締内、兩人共病死仕候

右者六ヶ月以上吟味未済、先達而書上置候処、病死仕候付、申上候、以上

子 閏二月

本多加賀守

川路左衛門尉

(中略)

本多加賀守・川路左衛門尉相伺候撰州野田村長兵衛初筆御咎之儀、以別紙相達候間、得其意可被達候、以上

閏二月九日

久世大和守

松平伊賀守

松平和泉守

牧野備前守

阿部伊勢守

土屋采女正殿

本多加賀守 懸

川路左衛門尉

土屋采女正御役知

摂州東成郡野田村

山城屋岩次郎支配借屋

河内屋

長兵衛

拾ひ取候品取上、

過料五貫文

可申付処、数日

入牢ニ付、令有免、

拾ひ取候品取上、

咎之不及沙汰

前書

野田村

百姓

伊右衛門

同村

百姓

藤兵衛

同村

庄屋  
年寄

右之通御咎可被申付候、以上

閏二月

(中略)

覚

一此地西丸御囲糯藏御修復并御糯手入等之儀ニ付、被

仰下承知仕候儀、申上候書付、忝通

一摂州野田村長兵衛初筆御咎之儀、以御別紙被仰下、

則相渡候処、御下知之通、御咎申渡候儀、当地町奉

行申上候趣、申上候書付、忝通

(朱書)聞  
但、町奉行共差出候書付忝通

右之通書付都合三通進達之仕候、以上

閏二月廿六日

土屋采女正

御老中五人様

(中略)

摂州野田村長兵衛初筆御咎

之儀、以御別紙被仰下、則相渡候処、

御下知之通御咎申渡候儀、当地町奉行

申聞候趣、申上候書付

土屋采女正

本多加賀守・川路左衛門尉相伺候摂州野田村長兵衛初

筆御咎之儀、以御別紙被仰下奉得其意、則加賀守・左

衛門尉江相渡候処、御下知之通御咎申渡候段、書付忝

通差出候付、進達之仕候、以上

閏二月廿六日

棋州野田村長兵衛儀、盗物与心付候品  
拾ひ取、吟味中預之身分ニ而懇ニ致他行候一件  
御下知之通御咎申渡候儀、申上候書付

本多加賀守

川路左衛門尉

本多加賀守

川路左衛門尉

土屋采女正御役知

棋州東成郡野田村

山城屋岩次郎支配借屋

河内屋

長兵衛

拾ひ取候品取上、

過料五貫文可

申付処、数日入牢ニ付

令宥免、拾ひ取候

品取上、咎之不及

沙汰

前書

野田村

百姓

伊右衛門

同村

百姓

藤兵衛

同村

庄屋

年寄

右之通御咎可申付旨、御下知之趣奉承知、今十八日御  
咎申渡候、依之申上候、以上

子

閏二月十八日

本多加賀守

川路左衛門尉

(後略)